

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 ☎763-5110
 会長 新美 敢
 幹事 堀江 宏輝
 会報委員長 魚津 常義

No. 29

ロータリーに活力を——あなたの活力を

PUT LIFE INTO ROTARY — YOUR LIFE

1988～89年度 R I 会長 ロイス・アビー

第321回例会 平成元年 1月24日(火) 晴 友愛の日

- ◇ “奉仕の理想”
- ◇ 出席報告
 会員 59(57)名 出席 43名
 出席率 75.44%
 前回 1月17日 (修正出席率)98.28%
- ◇ ビジター紹介 9名
- ◇ お誕生日祝福
 杉山君(1/2)、加藤(敏)君(1/16)、鈴木(正)君(1/16)
- ◇ ニコボックス
 1月19日ゴルフ会参加者一同より
 小林 明君 1月19日ゴルフ会で、家内が優勝しました。
 尾関 武弘君 ホームクラブご無沙汰致しました。
 杉山 卓男君、加藤 敏昌君、鈴木 正男君 誕生日祝い。
 鷲野 義明君 結婚記念日祝い。
- ◇ 大口副幹事報告

1. 次回例会終了後、理事役員会を開催いたしますので、理事役員の方はお残り下さい。

◇ 新美会長挨拶

江戸時代の花柳界では接吻のことを「おさしみ」と言ったそうです。又お刺身とは相思相愛、つまり相惚れのことで当時の花柳界では身を任せても“くちびる”は与えない程接吻は本当の愛情の表現とされていました。昨今はどうなっているのか……。

室町時代商業の流通も盛んになり都にも鮮魚が人の口に入る様になり明石の鯛、淀の鯉など当時の武士の栄華の頂点となったと言われます。そうして初めて日本人の特徴である「おさしみ」が作られる様になり「なます」から分かれて切った魚の身をワサビ酢、しょうが酢、タデ酢などで食べられる様になりました。「おさしみ」と言うのは武家政治の世の中で「切る」と言う言葉を嫌った為で「つ

くる」「おつくり」も同じ理由からとされています。ワサビ醤油で食べる様になったのは江戸時代の末で精々200年位の歴史しかありません。酢味の中でタデ酢が鮎用として今日も残っております。刺身と共に肉による油を使う料理法がポルトガル商船により伝えられ日本の代表的な魚料理の一つ「天ぷら」が生まれてくるのですが、家光の鎖国政策により魚介中心の料理となり、その後色々工夫され、やがて日本料理が完成されたのであります。日本人は特になま物を大切にするせいか味には敏感で五感を使って、その味を楽しむつまり視覚、臭覚、触感、聴覚、味覚という様に見て、臭いで、触れて……と言った具合です。

第2次大戦が終り今日我々は多くの犠牲の上に超先進国となり「おさしみ」の部分だけを頂戴して暮しています。感謝しなければなりません。

◇ 講演(1月17日)

“西太平洋地域の将来と日本の役割”
国際連合地域開発センター研究員
モンテ・カセム 氏



(紹介 宮尾君)
昨年名古屋JCにより開催されたアジア経済会議の資料によると、文明の中心は古代エジプトとメソポタミアから始まり、しだいに西に移ってきて、今

バックスアメリカーナの時代から西太平洋に移ると想定されています。これとは別に、最近こうした地域に関心が高まってきた理由は、この地域の経済成長の成果によるものでしょう。世界経済に波があっても、結構柔軟性をもって対処し、構造

改善に取り組み、再び成長の段階に入る事が出来るという力を、ここ2、3年で示しています。この地域は、約40年前はどの様な所であったかを振り返ってみると、今の姿からは想像もつかないような所でした。日本は敗戦下にあり、他のほとんどの国も植民地時代から独立への戦い途上であり、決して経済的には豊かな地域ではありませんでした。文化的には豊かであったかもしれませんが、経済的には大変未熟でした。この時代と比べるとこの地域の経済成長率は、今日世界平均を倍以上上回っています。しかし、この傾向が続くでしょうか。この成長を支えているいくつかの要因を考えてみましょう。

一番目に、西太平洋地域の経済は、輸出依存型の成長をして来ました。そこで大きな需要を吸収する役割を果たしていたアメリカ合衆国は、赤字べらし等に苦勞し、これからどれほどその役割を果たせるかは疑問です。

二番目には、米国・カナダとの特別貿易協定、また1992年のE C諸国の統合などを考えると大規模な市場形成が見えてはいますが、西太平洋諸国に対しては、閉鎖性が高まるのではないかという恐れがあります。

三番目として、エネルギー・資源の限界も最終的に大きな影響を与えるでしょう。今、米国の豊かさを石炭換算で考えてみると、1人当たり1万キロのエネルギー消費に至っています。ヨーロッパの諸国ではその半分の約4,500キロです。日本では約3,700キロです。一見すると日本経済の効率は良く見えるかも知れませんが、実際に香港や韓国が消費している約1,600キロで計算しても、いずれは世界の人口を支えられなくなります。いずれ輸出依存型の経済はこの大きな壁にぶつかるでしょう。

この背景のもとで、西太平洋地域の将来と日本の役割を考えなければなりません。輸出依存型の経済から相互依存型の経済に変えなければいけません。いま、経済が成長している間に入ってきている富を、社会資本として蓄積することは、不可欠だと思います。これによって、将来の生活水準を保証する手だてを考えなければなりません。フロー型経済を維持してきた日本は、特にストックの蓄積について注意すべきだと思います。相互依存型の経済に向けて必要とされる基盤は、相手を良く知ることです。日本と他の西太平洋地域諸国間では、社会・文化交流を兼ねた投資の仕方しなければならぬと思います。相互依存型の経済を育てるには色々な苦勞が伴います。労働市場の自由化もその1つでしょう。自分の国を中心にして運営してきた入国管理

法なども、西太平洋の諸国は十分再検討しなければならぬでしょう。また、金融の流れも国を問わず、市場メカニズムが決める所へ流れて行くでしょう。ここで、注意しなければならないのは、その金融が健全な経済活動に流れて行っているかということです。世界の国々の間の1年間の貿易通貨に当てはまるお金を、金融機関はわずか3日間で流し出しています。金融は投機的活動に走らないで、再び生産を支えるものになるように努力しなければなりません。ここでの日本の役割は、言うまでもなく大きいと言えるでしょう。

最後に、西太平洋地域の将来にむけて、日本が提供できる事は、どんな事でしょうか。世界の経済大国の中で平和産業を基盤にして成長を遂げたのは、例として日本が最初です。他の先進国のように軍事産業の依存度を高めるのではなくて、平和を基にした経済活動を振興する役割を果たすべきだと思います。西太平洋表域は、その外交上の努力の出発の場と考えても良いと思います。SDIの研究開発費の一部を日本の企業に持ってくるよう努力するより、寅さんの笑顔が世界各国の家庭まで届くように努力する事の方が、明日の日本に大切だと思います。

◇例会変更のお知らせ

- 名古屋西RC 2/2 (休)85周年記念例会の為、夜間例会に変更
- 名古屋大須RC 2/2 (休)節分例会の為、2/3 (金)大須観音にてPM 12:30より
- 名古屋空港RC 2/6 (月)15周年記念例会の為、2/5 (日)ホテルオークラレストランにてPM 5:00より
- 名古屋東RC 2/6 (月)和合・名東・千種RCとの合同例会の為、2/9 (木)ホテルナゴヤキャッスルにてPM 12:30より
- 名古屋名東RC 2/7 (火)東・和合・千種RCとの合同例会の為、2/9 (木)ホテルナゴヤキャッスルにてPM 12:30より

◇次回例会(1月31日)

- 講演 “中国の現状”
中国上海外国語学院日本語学部助教授
胡 国 偉 氏 (紹介 成田君)

◇次々回例会(2月9日)

- 4RC合同例会(東・和合・名東・千種RC)
ホテルナゴヤキャッスル2F天守の間
にてPM 12:30より